



凍結胚移植でのホルモン剤の使用と膣剤について



	ホルモン補充周期	自然排卵周期
方法	自然の排卵をおこさず、卵巢から出るホルモン(卵胞ホルモン、黄体ホルモン)を薬で調節して移植に適した内膜を整えて移植日を決定	自然な排卵日を確認して移植の日を決定 ※ 診察回数が増えることがあります ※ 移植が休日になる場合はキャンセルになります
使用するホルモン剤	卵胞ホルモン(プロギノーバ) 月経2日目より1日3回内服 妊娠9週まで使用	診察によっては卵胞ホルモン(プロギノーバ)を使用する場合があります
	黄体ホルモン(ウトロゲスタン膣錠) 移植決定より1日3回挿入 妊娠9週まで使用	黄体ホルモン(ウトロゲスタン膣錠) 移植決定より1日2回挿入 妊娠9週まで使用

※ ホルモン補充周期でのウトロゲスタン膣錠は朝、昼または帰宅後、就寝前に使用します。

※ ウトロゲスタン膣錠が使えない場合(ピーナッツアレルギーなど)は、ルティナス膣錠での代用も可能です。

※ 妊娠判定は膣剤を挿入する日を0日目として14日目に行われます。

妊娠判定が陰性の場合はお薬は全て中止となります。

<副作用>

- ・卵胞ホルモンの副作用：乳房不快感、嘔気、性器出血など
- ・黄体ホルモンの副作用：頭痛、眠気、性器出血、外陰部掻痒感など(5%未満)
- ・その他、発生頻度は稀ですが重篤な副作用として「血栓症」があります。手足のむくみやしびれ、頭痛、息切れ、胸の痛みなどの症状がありましたら、ご連絡ください。

ウトロゲスタン膣錠



ルティナス膣錠

